

## 全員野球で逆転勝利!

# 鹿島商 シード鹿工に競り勝つ 号外



3年生の意地、勝利導く

鹿児島商が持ち味の全員野球を随所に発揮し、シード鹿児島工に競り勝った。

背番号11の3年生投手、白井博人の好投が大きな原動力になった。6四死球を出し、再三ボールになるなど制球は定まらなかつたが、適度に荒れていることが相手打線の的を絞らせなかつた。要所では厳しいコースに直球、スライダーが決まって、散発4安打1失点で切り抜け、最後までリズムのいい投球が崩れなかつた。きよまの先発は鹿工と

対戦が決まった時点で監督さんに言われました。今まで2年生が頑張っていたので、それに応えるよう気合を入れて頑張りました。(白井)

春まで干す奮闘を背負っていたが、制球難でゲームを作れず、春の県大会3回戦、屋久島戦以降公式戦の当番は2年生の藤崎康平、紺屋諒大に譲っていた。夏に向けて何とか白井に自信を取り戻してもらった。きよまを探っていた中で、鹿工戦は絶対の試合石だった。3年生にとっては1年生大会で0-13、昨夏の鹿児島市内大会は1-4で

敗れた因縁がある。センバ甲子園にも出場し、県内最強チームを相手に燃えないはずはない。「勝てる」とは最後まで思わなかつたけど、気持ちが入っていて「ける」とは思っていない。捕手、野方勇大。打線は、ストライクを取りにくるボールを早いカウントで積極的に打って鹿工内村を攻略。七回一死から、白井のセリタ前ヒットを皮切りに3連打でチャンスを作り、押し出して同点。野方の当たりが敵失を誘い勝ち越した。守備も2試合連続無失策で投手陣を援護。全員がそれぞれの役割を果たし、チームの底力を示した。

第50回NHK旗争奪県選抜高校野球大会第4日は5月29日、鹿児島市の県立鴨池球場で準々決勝2試合があった。  
第1試合は鹿児島商がシード鹿児島工に先制されるも、七回に鮮やかな集中打で逆転。先発の白井博人が相手打線を散発4安打1失点の好投で完投勝ちだった。第2試合は鹿児島が鹿屋工を下した。第5日は30日、同球場で準々決勝残り2試合がある。  
【政純一郎】

